一般社団法人 神奈川県作業療法士会

県士会ニュース

No. 209 [2021.6]

Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents

TOPIC
8 県士会ニュースアンケートのご報告
1 巻頭言
2 公益法人格取得への道
3 各部からの報告
5 理事会議事録
7 連載コラム ちょっと一杯どうですか？
8 事務局からのお願い
8 編集後記

巻頭言 | 第18回神奈川県作業療法学会 準備途中経過報告

第 18 回神奈川県作業療法学会・実行委員長　對間 泰雄
（神奈川リハビリテーション病院）

この度、第 18 回神奈川県作業療法学会の実行委員長を務めさせていただきます、神奈川リハビリテーション病院の對間（ツシマ）です。昨年の 10 月から実行委員会を立ち上げ、Zoom や slack といった IT ツールを活用し、WEB 上で日夜多くの先生方と議論を重ねております。この場をお借りして、御礼を申し上げます。昨年 12 月号の松田学会長からのご紹介および 4 月号同封のチラシにもお示しした通り、テーマを「多様性に向き合う作業療法」と決定し 12 月 4 日（土）にハイブリッド開催の形態で準備をしております。さて「ハイブリッド」とは、パシフィコ横浜での会場開催とともに、オンライン上で配信を行う学会です。会場開催の特徴である臨場感、対面発表での緊張感、人脈づくりを大切にし、県士会員の学術的な場を守っていくとともに、オンラインを生かした利便性も重要視しています。県士会としても初めての試みであり、会場では感染対策を十分に行いながら、運営していきます。

全ての一般演題は、発表者へ事前に音声付きデータを登録していただく予定であり、オンライン上で公開する予定です。検索機能も含める予定であり、会場に参加しなくても、様々な発表を視聴できるものと期待しております。また、発表形式には会場での発表だけでなく、ハイブリッドという形態を生かし、オンデマンド発表限定の e-Presentation など、多様な発表の準備を進めています。演題募集期間は 4/19（月）～6/21（月）となっており、このニュースを目にされている現在でもまだ登録可能ですので、ぜひご応募下さい。今回も 5 年目以下の発表者を対象とするチャレンジ発表を用意しました。加えて、今学会では「演題支援制度」も行います。学会発表の経験が少ない方に、抄録やスライド作成など、発表のノウハウを WEB サイトから動画でお伝えしています。ぜひご覧ください。

また、特別講演、教育講演、シンポジウムで御講演いただく先生は、作業療法士にのみならず、医師、教育学者、エンジニアも含んでおり、多岐にわたっています。本学会の「多様性に向き合う作業療法」といったテーマに即した内容であり、様々な分野の県士会員様に好奇心を掻き立て、臨床を振り返る内容になるのではないかと感じています。講演とは別に、E-Lecture も企画しており、これらは内容が決まり次第各媒体でお知らせします。

県士会サイトトップページにバナー表示がされておりますが既に学会ホームページも開設されており、さらに各方面から会員の皆様へ情報提供ができるよう Facebook、Instagram、Twitter も用意させて頂きました。以下の QR コードでぜひサイトにアクセスを宜しくお願い致します。

今後、感染症の状況によっては、開催方法、プログラム、スケジュールなどに変更が生じるかもしれません。至らない点も多々あるかと思いますが、実行委員会一同、関係機関と連携しながら、精一杯取り組んで参りたいと考えております。神奈川県士会初の WEB を活用した開催であり、持続可能な学会となることをぜひご期待ください。それでは、よろしくお願いします。

第 18 回学会ホームページ

https://kana-ot.jp/wpb/kotc18th/

こちらから演題募集、Facebook、Instagram、Twitter のリンクに飛ぶことが出来ます。またお問い合わせフォームも上記からご用意しています。

公益法人格取得への道

公益目的23事業について
～ 公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（認定法）第2条 ～

公益法人化対策委員会　澤口 勇

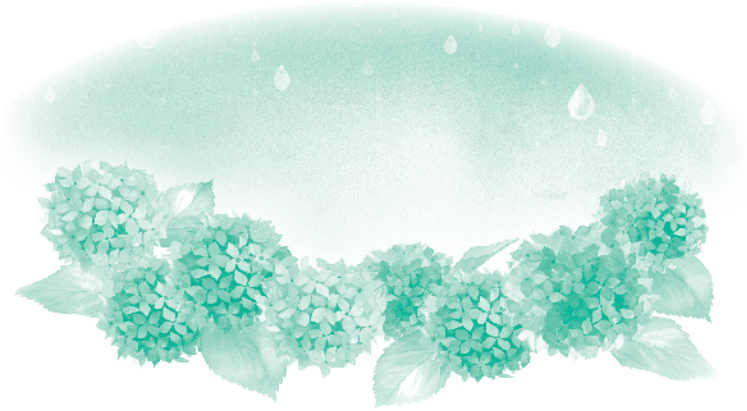
「公益目的 23 事業」とは何かについては県士会ニュース 200 号（令和元年 12 月号）にて以前ご説明をしておりますが、今年の春より会員になった方もおられると思います。今一度ご説明致します。

まず前ふりですが、現在私たちは一般社団法人として市民に対し、市民講座などの「公益事業」を行うことがありますが、団体としては公益性の許認可を受けておりません。従い、自分たちは「公益事業をやっている」と思うところがあるとすれば、少し厳しい言い方をさせて頂くとそれは自己満足です。これをきちんと県に問い自分たちの事業は「公益性がある」と認めてもらう、そのことが団体としての信頼を増し、また県内くまなく作業療法サービスを提供する責任を持つことにもつながります。これが一般社団法人から公益社団法人へ移行認定を受ける意義の一つです。

さて、認定法第 2 条において「公益目的事業」の定義が書かれております。以下抜粋しますと「学術、技芸、慈善その他の公益に関する別表各号に掲げる種類の事業であって、不特定多数かつ多数の者の利益の増進に寄与するものという」とあります。この別表に公益目的事業として 23 事業種に分類された記載があります。紙面に限りがありますのでここで 23 事業全てを紹介できないのですが、「学術の振興を目的とする」「障害者の支援を目的とする」「高齢者の福祉の増進を目的とする」その他「スポーツ振興」「偏見の防止」「男女共同参画社会の形成」「地球環境の保全」etc　とこのように多種多様の 23 種類の事業名が書かれています。公益法人となるにはこの「公益目的 23 事業」のうち、必ずどれかに該当する公益目的事業を行っている必要がありますので、当会としては大変重要な項目です。皆さんもぜひネットなどで検索して頂き、まずは興味や関心を持って下さい。

では当会としては具体的にこの 23 事業のうち、どの項目の公益目的事業を行う団体とするのか。事業項目は複数挙げることができます。この議論を実は昨年、プレ公益目的事業を当委員会主催で行ったあと、検討し立案する計画を立てていましたが、コロナ禍で全てが振り出しになりました。まずは今年、23 事業のうちどの公益目的事業を行う団体とするのか、この議論から公益法人格取得に向けた作業として取り組みたいと考えております。皆さんは 23 事業の中からどの公益目的事業を行う団体にしたいと思いますか？身近の患者さんやご家族、またその周辺の人たちにとって役に立つ団体であるにはどうしたら良いか、ぜひ皆さんの声を聞かせて下さい。

またその検討には「どのようなやり方で公益目的事業を行うか」具体的な企画案も重要です。講演会なのか、研修会なのか、相談や助言、調査でも良いですし、○○月間でも良いです。展示会や競技会なども良く、例えばある県士会は障害者向けに風船バレー大会を県士会として主催しております。このように「どのような事業形態か」についても実は「公益認定等ガイドライン」に詳しく書かれています。次号のニュースでは「事業区分（17 あります）」についてご紹介します。



＼各部からの報告／

▶教育部

（文責：奥原 孝幸）

連載！「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

このコーナーへの掲載は一年振りとなります。県士会教育部関連の情報を改めて毎号ご案内していきます。教育部は OT 協会の生涯教育制度に関する事業を主に展開しています。

生涯教育受講記録やポイントシールが無くなったのをご存じですか。

現在受講記録を会員ポータルサイトに移行する手続き期間中です。実は３月での終了予定を９月まで延長されています。2020 年３月までは手帳とポイントシールを使用し、2020 年４月～本年９月末の間が県士会での手帳移行準備期間で、その後は会員ポータルサイト内にて自身で手続きします。そのため 2020 年３月までの参加証明書をお持ちの方はまだ間に合いますので、県士会にて手続きした上で、自身の受講記録を会員ポータルサイトに移行する手続きをお願いします。

詳細は、協会、県士会のウェブサイトをご参照ください。とは言っても、サイトのどこに書いてあるんだ？！という方も多いと思います。ポータルサイトって何だ？という方もいます。不明なことは、とにかく以下にお問い合わせください。

★県士会ウェブサイトから質問ができます！

生涯教育制度に関する研修会開催に関して

神奈川県士会教育部では、昨年度はコロナ禍にて十分な研修会ができませんでしたが、現職者共通研修、現職者選択研修、臨床実習指導者講習会、事例報告登録制度研修会など、ウェブ研修会となりますが、一昨年度まで継続して開催してきました研修会をコロナ禍でも開催します！専門作業療法士、認定作業療法士を目指していただくべく便宜を図れるように計画しています。

詳細は、県士会ウェブサイトに掲載しますので、注意していてください。サイト更新時に届く「kana からの手紙」（ウェブサイトから申し込めます）に登録すると掲載時もれなく確認、申し込みができます。

ご不明の点はどんなことでもご連絡ください。
教育部　奥原 孝幸（神奈川県立保健福祉大学）
046-828-2738（直）、okuhara-sp8@kuhs.ac.jp
県士会ウェブサイトからも質問ができます。

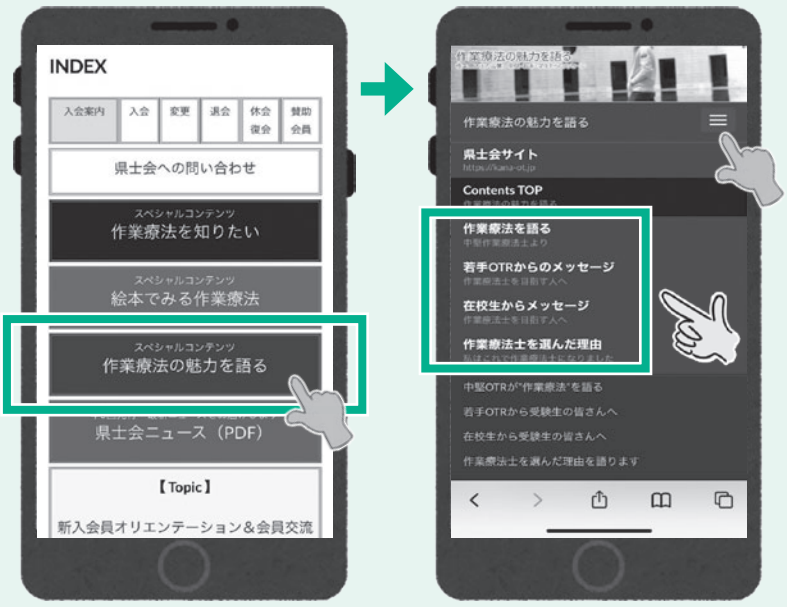
▶ウェブサイト管理委員会

（文責：佐藤 範明）

県士会サイト　スペシャルコンテンツ紹介

県士会サイトでは様々なコンテンツが存在していますが、そんな中でも「スペシャルコンテンツ」が複数あります。本日はその内１つの【作業療法の魅力を語る】を紹介します。本コンテンツは、「中堅 OTR が“作業療法”を語る」、「若手 OTR からのメッセージ」、「在校生からのメッセージ」、「作業療法士を選んだ理由」の４つから構成されています。作業療法学生から中堅作業療法士の仕事にかける想いや体験談、作業療法を志したきっかけなど様々な語りが満載です。人の人生が色々とあるように作業療法士になるまでのプロセスも色々です。思わず同じ境遇の作業療法士も見つかるかも知れません。是非一度コンテンツをご覧になって下さい！また、皆様からの原稿の協力もお待ちしております。あなたのメッセージが今後の作業療法士を志すきっかけになるかも！？

図）【作業療法の魅力を語る】スペシャルコンテンツ 閲覧方法（スマホ Ver.）



▶学術部研究助成班

（文責：佐々木 秀一）

2021年度の研究助成事業の要項変更について

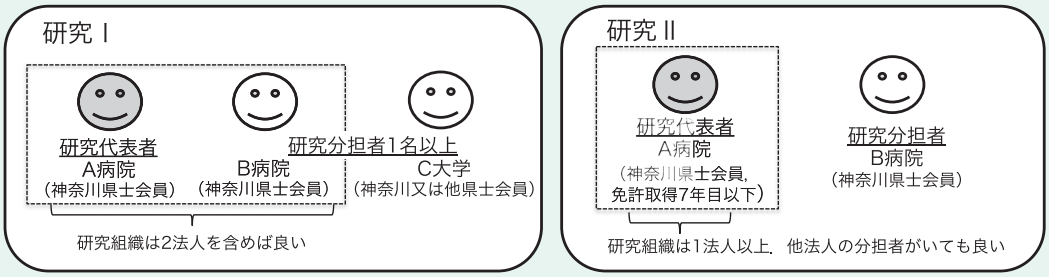
神奈川県作業療法士会の研究助成事業では、毎年２研究課題に対してそれぞれ最大 20 万円の助成金を出しています。この事業の目的は、神奈川県作業療法士会の発展に寄与する研究・実践についての知見を多くの会員間で広く共有することであり、最終的には論文投稿するまでを目標としています。2018 年度から若手を含めた様々な神奈川県士会員からの研究活動を活発化させるため、応募要項のうち研究代表者及び研究組織の要件を一部緩和しました（下記の図を参照）。2020 年度は、研究Ⅰが２名に支給者されました。

2021 年度における研究課題の公募期間は５月１日から７月 31 日までです。興味のある方は、県士会ホームページで研究助成事業概要及び必要書類を確認して下さい。研究となると敷居が高く感じられますが、チャレンジしたいと考えている方に対して、学術部が相談に乗ることも可能です。質問や相談したことがある方は、学術部研究助成事業班 kana-zyosei@kana-ot.jp まで気軽にメールして下さい。

【研究代表者及び研究組織】

（研究Ⅰ）研究代表者は全神奈川県士会員。研究組織は**２法人以上**（研究分担者は神奈川県士会員を１名含む）。
（研究Ⅱ）研究代表者は免許取得７年目以下。研究組織は**１法人以上**。

［研究組織の例］



研究助成事業一覧表（2010 年度～ 2020 年度）

年度		研究テーマ	研究者	所属
2010	平成 22 年	作業選択意思決定支援ソフト「ADOC」の内容妥当性の検討	長山　洋史	北里大学
		神奈川県小学校特別支援教育の作業療法の有効性に関する研究	渡邊　夏子	神奈川県立こども医療センター
2011	平成 23 年	身体障碍作業療法における実態調査	友利幸之助	神奈川県立保健福祉大学
		重症心身障害児施設の入所者に対する作業療法の介入に関する研究	杉山いずみ	小さき花の苑
2012	平成 24 年	ALS 患者の自立支援用具、生活の工夫状況調査と生活ガイドブック作成の試み	磯　朋代	北里大学東病院
		単身生活可否の判断について―作業療法士の研究に基づくチェックリストの作成	福嶋　祐子	汐田総合病院
2013	平成 25 年	神奈川県小学校特別支援学級に対する作業療法の介入方法に関する研究	笹田　哲	神奈川県立保健福祉大学
		作業に焦点を当てた実践が長期入院統合失調症者の精神症状や QOL に及ぼす効果の検証	松岡　太一	福井記念病院
2014	平成 26 年	精神領域に携わる作業療法士の研修会ニーズと参加に関する研究	水野　健	神奈川県立保健福祉大学
		整理整頓、学用品の操作が困難な子どもの作業療法支援に関する研究	山本　浩輝	なのはな苑
2015	平成 27 年	意味のある作業への参加促す作業療法の治療戦略に関する研究	赤塚　花実	新横浜リハビリテーション病院
		脳卒中患者における手指機能のテーピングの効果	林　慎也	イムス横浜狩場脳神経外科病院
2016	平成 28 年	急性期および回復期脳卒中患者の麻痺側上肢機能と日常生活上の上肢使用量の関連性	佐々木秀一	北里大学東病院
2017	平成 29 年	作業療法学生に対するクリニカルリーズニング評価の予備尺度の開発	丸山　梓	湘南慶育病院
2018	平成 30 年	作業療法が心疾患術後患者におけるせん妄および心身機能に及ぼす影響：縦断的分析による検討	佐野　邦典	横浜市立大学付属市民総合医療センター
		精神科スーパー救急病棟における作業療法実践の現状と課題	佐藤　範明	昭和大学付属烏山病院
		脳卒中重度麻痺患者に対する上肢機能アプローチの方略の解明	萩原　祐	湘南慶育病院
2019	令和元年	精神障害領域における作業機能障害の評価に基づく支援の効果検証 ― 多施設間事例集積研究 ―	松岡　太一	福井記念病院
		重度心身障がい児の視線入力装置による意思表出の評価とその効果について	加藤実帆子	川崎市中央療育センター
		神経膠芽腫患者に対する Occupation Besed Practice の実践が、健康関連 QOL に与える効果の検討	黒崎　空	北里大学病院
2020	令和２年	作業療法教育における臨床参加型実習の利点・問題点の抽出	嘉部　匡朗	昭和大学横浜市北部病院
		運筆に影響する座位姿勢の条件と頭部運動制御、体幹筋活動の関連	牛腸　昌利	国際医療福祉大学小田原保健医療学部

理事会議事録

★ 2020 年度 2 月 25 日　理事会議事録案

1．日時：2021 年 2 月 25 日（木）19：00 ～ 21：20
2．場所：ウェブ開催のため各自宅・職場
3．参加理事：錠内・野々垣・木村・金山・吉本・佐々木・奥原・神保・玖島・野本・遠藤・神田・戸塚・澤口・佐藤良・西川・大郷（17 名）
欠席理事：佐藤範（1 名）
参加監事：田中（1 名）
欠席監事：鶴見（1 名）
その他：池田選挙管理委員長（1 名）
4．議決事項
（1）選挙管理委員会
1）理事選挙について
池田選挙管理委員長より、理事 17 名監事 0 名の立候補があったと報告がされる。理事 1 名監事 2 名は理事会推薦になることが伝えられる。
（2）事務局
1）湯河原町介護認定審査会　次期委員（2021 年度～ 2023 年度）推薦について
野地育子氏（曽我病院・継続）⇒承認
2）厚木市介護認定審査会委員変更について
12 月の理事会で岩瀬充氏と有田誠氏で理事会承認しているが、有田氏より都合が悪くなったため変更したいと連絡があった。新たに岩島和香奈氏（神奈川リハビリテーション病院）の承認をお願いしたい。⇒承認
3）新型コロナウイル感染対策に関する会長メッセージの発出について周知依頼
4）神奈川県
『地域支援事業のためのリハビリテーション専門職等窓口一覧（仮称）』について
高齢福祉課より地域支援事業における、市町村からのリハビリテーション専門職等の派遣要請に対して安定的に確保できるしみづくりにつなげるために『地域支援事業のためのリハビリテーション専門職等窓口一覧（仮称）』を作成したいと連絡あり。地域リハ部と連携していく。
5）小田原市箱根町真鶴町湯河原町障害支援区分認定審査会委員について
理事 ML で審議し、山本潤氏（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）が承認された。
6）小田原市介護認定審査会委員について
理事 ML で審議し、佐藤良枝氏（曽我病院認知症疾患医療センター）と舘下潤一氏（国府津病院）が承認された。
7）2021 年度休会希望者について
理事 ML で審議し、15 名が承認された。
（3）学術部
1）学術部・福利部主催の新人オリエンテーションおよび研修会について
今年度は新人会員の入会が少なかった観点から、来年度の 6 月に開催予定の学術部・福利部主催の新人オリエンテーションおよび研修会の準備・告知を早めに準備し、3 月の県士会ニュースに掲載したい。
⇒福利部からの提案を鑑み、6 月 13 日（日）に開催。実習できなかった学年が社会人となるので不安の共有や理事からのアドバイスを行う予定。
（4）教育部
1）現職者共通研修　オンライン開催
2 月 7 日：4 テーマ、参加者延べ 125 名
2 月 11 日：昨年度の事例報告会：参加者述べ 79 名
2 月 23 日：4 テーマ、135 名申し込み
2 月 28 日：今年度事例報告会、72 名申し込み
2）臨床実習指導者講習会 オンライン開催 公募
2 月 20 － 21 日：参加者 79 名
3 月 13 － 14 日：参加者 80 名定員
（5）福利部
1）学術部・福利部主催の新人オリエンテーションおよび研修会について
来年度開催予定の活動に対するチラシ配布を行う。
（6）地域リハビリテーション部
1）神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会の報告
今年度の訪問リハ実務者研修会を検討。訪問リハ財団から訪問リハブロック会議の連絡。1 月 20 日ウェブ開催。木村副会長参加。
2）県建築士会「専門職連携 住宅改修のワークショップ」
2 月 13 日土曜日開催。ウェブ研修会で作業療法士会からは遠藤理事が対応。
3）横須賀市福祉部から士会へ依頼
2021 年度「自立支援・介護予防の観点から実施する地域ケア個別会議」参加依頼があった。 遠藤理事の方で対応し、将来的に横三地区の作業療法士へ引継ぎをしてく方向で考えている。
4）県委託事業について
2 月 9 日に市町村研修会で報告予定。報告書は県から配布される。
（7）制度対策部 生活行為工夫モデル事業 事例投稿のお願い
事例の具体的活用について、西川理事と相談中。
（8）ウェブサイト管理委員会
1）新コンテンツ「絵本でみる作業療法」について
運用開始。今後も順次更新予定。県士会ニュース 207 号掲載。
（9）学会評議委員会
1）学会評議委員会部員の増員
小柳俊介氏（医療福祉法人五星会　菊名記念病院）⇒承認
2）2022 年の臨床大会の大会長の選出について
1 月末日までの公募に対して応募者なし。大会長・学会長を探すことに労力がさかれ、肝心のマニュアル作りに至らない。開催時期や大会長について

など今後運営について提案があった。継続審議。

3) 第 18 回県学会 WEB 配信（抄録を含む）に当たっての企業との契約締結
契約先：株式会社　コームラ

(10) 認知症対策委員会

1) OT 協会意見交換会報告
1 月 31 日(日)に OT 協会意見交換会に 3 名出席。人材育成と派遣に関して意見交換を行った。交通費とボランティア保険加入について説明した。

(11) 地域包括ケアシステム推進委員会

1) 制度対策部福祉用具班（沼田班長）
横浜市における地域リハ活動支援事業について説明、事業内で福祉用具を取り上げる方法の提案や、対象となる住民の方々に受けいれられそうな福祉用具の例、福祉用具班での事例集についての情報交換を行った。

2) 横浜市事務事例検討会（2021.1.26、オンラインにて開催）
前回の宣言下同様、各所属先の行動指針を遵守し、可能な範囲での依頼受託となっていることを報告。

(12) エリア化推進委員会

1) 代議員へのアンケート実施について
現在検討中。

(12) 監事より
引き継ぎができるようなデータ化をお願いしたい。意見交換が行える理事会の運営をこれからも継続してほしい。

(13) 渉外

1) 公益社団法人神奈川県病院協会　2020 年度第 2 回学術委員会　参加者：会長
第 40 回神奈川県病院学会について

2) 47 委員会　参加者：木村副会長、野本理事、佐々木理事、大郷理事　以上

（文責：金山）

★ 2021 年 3 月 25 日　理事会議事録

1. 日時：2021 年 3 月 25 日（木）19:00 ～ 21：25
2. 場所：ウェブ開催のため各自宅・職場
3. 参加理事：錠内・野々垣・木村・金山・吉本・佐々木・奥原・神保・遠藤・神田・佐藤範・戸塚・澤口・佐藤良・西川・大郷（16 名）
欠席理事：野本・玖島（2 名）
参加監事：田中（1 名）
欠席監事：鶴見（1 名）
4. 議決事項

(1) 事務局

1) 2021 年度総会開催について
意見交換を行った結果、総会はオンライン開催とし、臨時理事会は対面・オンライン両方での開催を見込み、内規について再提案する。また、臨時理事会を開催し、三役にはどのような人になってほしいか等意見交換を行うこととなる。

2) 第 40 回神奈川県病院学会について
神奈川県総合医療会館大講堂での実地開催（130 名程度）とリアルタイム配信（特別講演、シンポジウム）を組み合わせて行う予定。また、一派演題をオンラインで開催予定（7 月 13 日～ 23 日配信）。学会テーマは「with/after　コロナ時代の地域医療」。

3) 養成校への祝電について
卒業式にあわせ対応済。入学式を行わないところもあるが 4 月 1 日には届くよう発送済。

4) 会員の資格喪失者について
2020 年度末で 6 名が会員の資格喪失となる。

(2) 学術部

1) イベント参加 Web 受付システム・オンライン決済の導入案について
オンライン研修会が多くなり、選択肢が増えている。学術部でパイロット導入を検討する。

2) 研究助成事業の概要の一部変更について
換金性のある物品（パソコン，タブレット，カメラ等）について、これらの物品が承認された場合は①研究助成班で物品を管理する②研究終了後には速やかに県士会に返納する（原則 3 年）こととしたい。
⇒今回は管理をするということなので提案通りで承認。ただし、今後も検討した方がよいことも多いので継続して審議していく。

3) 動機付け面接を学ぼう
日時：3 月 7 日（日）13：30 ～ 15：30（120 分）
講師：澤山透氏（相模が丘病院）
参加予定人数：79 名

(3) 認知症対策委員会

1) 制度対策部福祉用具班との合同研修会（オンライン）開催
2 月 27 日(土) 23 名受講・キャンセル 2 名・スタッフ 6 名

(4) 地域包括ケアシステム推進委員会

1) 支援事業実績
今年度はコロナの影響が強く、年間 20 件弱 (4 月以降確定) の見込み。来年度前半もコロナの影響が残ると予想される。4、5 月依頼は少しずつ入ってきており、部員、派遣者へ連絡している。

(5) 委員推薦依頼について
令和 2 年度に国が策定した「循環器病対策推進基本計画」にのっとり、神奈川県でも計画策定をすることとなりリハビリテーション専門職の代表として三団体協議会に委員推薦の依頼を行うことになった。
⇒委員に推薦できる人がいれば木村副会長に連絡する。

(6) 監事より
なかなか対話ができず、それぞれが対応してきた 1 年だった。今後は協力して取り組むにはどうしたらよいか考えていってほしい。　以上

（文責：金山）

連載
RENSAI COLUMN
コラム

ちょっと一杯 どうですか？

No.18 「虹が輝く大空で」

『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰からも『○○先生』と呼ばれている。

このところ時間ができたので、長年連れ添っている奥様にデートの申し込みをした。「たまにはコーヒーでも飲みにいかないか」と。もうすっかりでかくなった子供たちを抜きにして、二人だけの時間はある意味大きなチャレンジ（!?）のような気がした。外は珍しく春の豪雨（あらし）。行き先は近所にある普通のレストラン。お店に入ってみると、テーブルは透明アクリル板で仕切られた壁があちらこちらに並んでいる。感染予防対策を全面的にアピールしているためだろう。コロナが日本で流行ってからはこのような飲食店には全く行かずにいたので、しばし辺りをキョロキョロ…、世の中の変容になんとも馴染めない自分がいた。コーヒーを注文して席に着いた。店で飲むコーヒーは家で飲むコーヒーよりも美味（うま）いのは何故だろう。我々のテーブルにもアクリル板が固定されている。「透明なアクリル板じゃなくても色々な色で楽しめるような間仕切りの演出があってもいいのになぁ」と、奥様にぼやいてみたが“そうねぇ”と、この変容にすっかりと順応しきった適切な返答だった。いずれにせよ、久しぶりの二人の時間に自然と色々な話が出てくる。子供の話や今後の話。これって、どのご家庭もごく当たり前にしているかもしれないが、“今まで…していなかったかもしれない…”と、我ながらにふと思った次第。そして、何を思ったか、これって“幸せ”なことなのか…、こんな日々はいつまで続くのだろうか…、互いに老いてくれば身体もきかなくなるし、記憶にも自信が薄れたりするだろう…あと何年生きることができるのだろうか…ついコーヒーを飲みながら、私が最近感じた老いや終末期医療について奥様と話した。

話した内容は奥様も知っている私の職業（作業療法士）で出会ったとある VIP の患者についてだった。その方は、日本の医療を開拓してきたとても有名な医師である。がんを患い治療療養のため入院された。カルテや胸部レントゲン、採血データを見る限り“なかなかリハビリは難しい”状態であった。主治医もご本人の調子に合わせながらやってほしい、とのことだった。連日の訪問で実施したのはマッサージ。足の浮腫みが酷く、辛い様子でなんとかしてほしいと言われ、リンパ節に転移もないのでリンパマッサージで多少変化があることを期待した。初回実施をした翌日、見事に両足の浮腫みが引いている。ご本人も大喜びで「今日もお願いしたいですね」と。実施しているその時間は、患者となった先生の話を聞く大切な時間となった。考えられないくらいの苦労と努力を重ねてきた人生を自身で振り返りつつ私に話をしてくれる。ご本人もマッサージで気持ちが良いところで、ついつい居眠りをし始める。リラックスしている証拠…かな。「寝ちゃってもいいですからね」と声をかけると、“ありがとう。これをやってもらうと、つい眠くなっちゃうんだよなぁ”と気持ちよさそうに返答をする。ある時、“今度○○に連れてってくれよ、一度見てみたいなぁ”とご本人の希望が零れた。「行きましょうよ。お連れしますよ。主治医に聞いておきますからね」と答えると、“是非連れてってよ。行きたいなぁ。ハハハ”と今までにない笑顔。“それにしてもリハビリの人の手って魔法だね。皆そうなのかね!?”「そうかもしれませんね。でも僕のやっているのは魔法じゃなくてオマジナイですよ」“ハハハ　オマジナイか。そのオマジナイが効くんだよな”と。互いに変に畏まらない仲になってきていたので、気が楽とのこと。いつも“あ、待っていたよ”と私を迎えてくれる。見た目もかなり痩せてきた先生が“がんだから仕方がないな。ハハハ”と受け流している。“そう言えば、日本を騒がしたあのニュース…知っているかい？そう、あれね、敢えて表沙汰にはしてないけど実はね、国から依頼を受けて私が対応した重大な事件でね…大変だったけど何とか神経毒の原因物質を特定してね、即座に対応の指示を出すことができたんだよ”と話しは尽きない。“もう飯なんか二日も食ってないんだ”とぽそっと口にする。「やっぱり食欲が湧かないん…でしょ!?」と私が答える。“そう、食欲もなにもないから、匂いをかいで食べたふりして胡麻化しているんだ。ハハハ”と無邪気になる。「それじゃ、看護師さんも大変ですね。ま、仕方がないか…。でもちょっとは口にしてみても良いんじゃないですか!?　では先生、明日また来ますね。今日はこれで失礼します」と、名残惜しくも部屋から出た。マッサージをしながらの話しはいつも楽しかった。先生のニコニコ顔が自分の癒しにもなった。しかし、翌日の出勤直後“昨晩急変し静かに息を引き取った”との連絡。あまりにも急な話であったので、多少動揺している自分がいた“えっ…と　ホント!?”。急いで状況を確認した後、先生の出棺に立ち会った。ご遺族から「リハビリのマッサージが気持ちいいから、我々も教えてもらうように言われたんですよ。本当に…本当に…ありがとうございました。」と伝えられた時は、堪えていたものが止まることを阻み熱く流れた。私にとって終末期を迎えた有名医師と時間（とき）を共有した貴重な体験を少しだけ奥様に話すことができた。すると“相手がどんなに偉い人でも、偉くない人でも、いざとなると中々その対応って難しいかもしれないよね。相手の気持ちを引き出したり寄り添ったり、そういうのができるって、作業療法士は本当に良い職業よね。パパにとって天職かもね。”といつになく真剣に私の話を聞いてくれた奥様は、カップに残っていたコーヒーを一気に飲み干し、自らの手番に備え始めた。時間はたっぷりある。それを察した私はコーヒーをお替りし、来るその時間の準備に取り掛かったのである。

店から出るとき、今まで激しく降っていた雨がやっと止み、西に鮮やかな夕陽が輝いた。雨上がりの空はまだまだどんよりとしていたが、東の空にはとてつもなく大きな虹が見事に現れた。虹が大好きな奥様は興奮しっぱなしで、近くにいたおじさんに“凄いですね、大きな虹ですね、ほらダブルレインボーよ、凄い！”と声をかけている。今回のコーヒーデートは虹とともにエンディングを迎えた。ん、たまには“のろけ”てみるのもいいもんだ。

今回も登場した“おじちゃん”。OT を一生涯の仕事と決意し、長い OT の歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。

（文責：ペンネーム おじちゃん）

県士会ニュース・アンケートのご協力頂き有難うございました

広報部・ニュース班

みなさま昨年 10 月 -12 月、今年 2 月 -4 月に実施のアンケートにご協力頂き有難うございました。様々な職場にご勤務の経験 10 年未満から 30 年以上の方までお答え頂きました。ご回答から記事について巻頭言から編集後記に至るまでお目通し頂いていることがわかりました。記事内容、デザイン、見やすさについても高評価頂いた回答もありますが、まだまだ向上を目指す余地もあることがわかりました。ここで頂いたご意見を紹介したいと思います。

まず「地域ごとの取り組みや課題、今後の方針などの情勢」といった情報や、「COVID-19 の感染拡大の中 OT はどんな働き方をしているか」など現状に即した話題への希望がありました。また「在宅生活支援の実際」、「福祉用具や自助具に関すること」、「自動車運転の評価」、「就労支援について」など臨床で具体的に役に立つ情報の希望もあったほか「キャリアデザイン」、「作業療法のどこが好きか」なども取り上げて欲しいとのご意見もありました。さらに放課後等デイサービスでの展開など、各分野の第一人者の方の記事も読みたいとのご希望もありました。

発行形態については、回数が現行通り 6 回で良いとの意見が多かったのですが、3 回で紙面ボリュームを増してはどうかとのご意見もありました。またニュースのデジタル化は賛成のご意見が多くありました。理由として「移動時間や待ち合わせの時間などに気軽・手軽に読むことができて便利」、「ペーパーレスで環境への配慮につながる」、「印刷費用や発送費用を抑え会費を他に回せる」等がありました。ただデジタル化の移行には「PDF 公開はパッと読みにくい」とのご意見に加え、「会員のメールアドレス登録の必須化」、「配信通知が確実に届くような体制」が必要であり、それが整うまでは紙面送付による方法も必要であろうとのご意見ありました。

ニュースで「動向が追えることは大変ありがたい」などの励みになるお言葉も頂戴しました。「県内の作業療法士の活動をもっと取り上げて、盛り上げて欲しい」、「会員が楽しんで読めるようにして欲しい」などの声も頂戴できました。臨床でお忙しい中頂いたご意見は大事にし、今後の紙面づくりに生かして参りたいと思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。どうも有難うございました。

事務局からのお願い

- **休会される方**　来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**（末日消印有効）までに ①『休会届』と ②『証明書』を 郵送 でご提出願います。**（FAX不可）**。
- **退会される方**　年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 又は ②FAX にてご提出願います。**（上記日必着）**。
- **届出内容を変更される方**　住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『変更届』を ①郵送 又は ②FAX にてご提出願います。（随時受付）

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ**公式ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。
なお期日までにご提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落しとなり、返金を致しかねます。

編集後記

私、ぴぐめい編集長は 12 月に開かれる第 18 回神奈川県作業療法学会の広報係も拝命しております。学会形式のイベントは 1 年ぶりですので、感染防止に気を付けながらも会場のパシフィコと WEB で盛り上がれたらいいなと思います。先日より公式の各種 SNS が発信を開始しました。Twitter も Instagram もバズったらいいなあ。みなさま、巻頭で紹介されている県学会 WEB サイトを訪れぜひフォローお願いします！！

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース

〈209号〉2021年6月発行（年3回発行）

発行責任者　錠内 広之
編集責任者　神保 武則
編 集 担 当　出口 弦舞（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科）
山岡 洸（湘南慶育病院）／佐藤 愛（悠の木株式会社）／安田 優子（横浜旭中央総合病院）
丸岡 ちひろ（済生会横浜市東部病院）／松井 洋鷹（渕野辺総合病院）
碇屋 瑛理（佐藤病院）／岩居 洋輝（佐藤病院）
印刷　発送　株式会社髙陽印刷所
事　務　局　〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号
TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金　10：00～15：00
メールアドレス：jimu@kana-ot.jp
一般社団法人　神奈川県作業療法士会ウェブサイト
https://kana-ot.jp ➡ 作業療法　神奈川　検索
Facebook　https://www.facebook.com/kaotwebkan
Twitter　https://twitter.com/kaotwebkan